

【取組の概要】

南海トラフの巨大地震のような大規模災害の発生時には、停電や避難経路沿いの家屋倒壊による閉塞等、想定外のことが次から次に起こることが、十分に考えられます。したがって、最後は自分の判断で避難をすることになります。

東日本大震災では、「津波でんでんこ」（津波が来たら他人にかまわず、それぞれに必死に逃げよ）という教えにより、岩手県釜石市の子どもたちが高台へ率先して避難し助かった事例等があります。地方公共団体や自主防災組織等は、自分たちの判断で避難する防災教育することが必要です。

【計画、整備にあたっての着眼点・留意点】

- ・津波に対しては地震の強さと揺れの長さで判断し、すぐに逃げる習慣づけが必要です。
- ・日頃から、家族と話し合っておく等で、自分の避難方法を選択し、シミュレーションしておくことが必要です。

【事例】

○尾鷲市の取組（率先避難）

- ・尾鷲市は、以前から「率先避難」の取組を地域単位で行ってきましたが、東日本大震災以降、その重要性が改めて認識されたことから、より一層、率先避難の推進に力を入れていくこととしています。
- ・誰かが逃げ始めれば、他の人も一緒に逃げ出すため、率先避難は、このような心理特性を理解した上での、迅速な避難を実現するための方法です。具体的には、下記の取組をしています。
 - ①各地区での防災講和で説明
 - ②防災訓練での実践
 - ③学校教育での実践・・・従来の避難訓練でのグラウンドに集まり点呼する方法から、まず近くの高台に避難してから点呼する方式に変更した。
 - ④消防団員への周知・・・自分や家族の身を守ることを第一とし、津波来襲時は、団員自身が周囲に避難を呼びかけ、率先避難者となることとしている。



広報誌の表紙に示される「津波は逃げるが勝ち！」の表示